

水稲育苗用ハウスの空き期間を活用した 簡易養液栽培システムによるミニトマト栽培

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

野菜—ミニトマト—施設資材

2 担当者名

古川鞠子

3 要旨

水稲育苗用ハウスの空き期間を活用した簡易養液栽培システムによるミニトマト栽培の安定生産技術を確認するため、ミニトマト3品種（「アンジェレ」、「サンチェリーピュアプラス」、「プレミアムルビー」）を栽培し、収量・品質を2か年評価した。7、8月のハウス内が高温となる時期に開花した花房ではいずれの品種でも花落ちが多く、着果率の低下、果実の裂果・軟化玉が多く発生する傾向が見られた。品種により収穫開始時期、収量、糖度に差がみられた。

- (1) 本試験では JA 全農式トロ箱養液栽培システム『ういず One』を用い、省力化のため主枝1本仕立て、ホルモン処理無しで栽培を行った。いずれの品種も7月以降の高温期に花落ち等が発生した。
- (2) JA との契約栽培となる「アンジェレ」は、収量が3品種の中で最も多くなり、糖度も高い傾向がみられた(表1)。また、出荷基準に従い果実が濃い赤色になってからヘタ無しで収穫するため、他の品種と比べて収穫のタイミングを調整しやすく、作業性が良い。
- (3) 「サンチェリーピュアプラス」は、高温期に花落ちが多くなり収量低下につながった。また、裂果が発生しやすい傾向がみられた。
- (4) 「プレミアムルビー」は1果重が大きく、3品種の中で収穫開始時期が最も早かった(表1)。

表1 品種別の収量、可販果率及び糖度

品種	調査年度	月別収量(kg/10a)					総収量 (kg/10a)	可販果収量 (kg/10a)	平均1果重 (g)	可販果率 (%)	平均糖度 (Brix [*])
		7月	8月	9月	10月	11月					
アンジェレ	2023	18	447	1244	944	552	3206	2379	8.4	74.2	8.4
	2024	48	1355	1517	706	150	3665	2774	10.2	75.7	8.3
サンチェリー ピュアプラス	2023	186	492	148	542	645	2013	1658	9.8	82.4	6.6
	2024	263	1193	246	314	269	2224	1131	11.1	50.8	8.0
プレミアム ルビー	2023	231	805	955	479	591	3061	2385	13.4	77.9	6.9
	2024	493	1271	983	161	36	2849	2043	13.0	71.7	8.0

※ういず One を用いたミニトマト栽培の全国平均収量 3.3t/10a(令和5年度 全農)

※ういず One と灌水装置のみの導入コストは約100万円/5a(ういず One を500箱設置)であり、ういず One は3~5年程度使用が可能である。

<耕種概要>
 栽植密度: 1,322 株/10a
 定植日: (2023年)6月2日、
 (2024年)6月4日
 栽培管理: 1本仕立て、つる下ろし誘引、
 ホルモン処理無し
 収穫期間: (2023年)
 7月21日~11月14日、
 (2024年)
 7月16日~11月15日



図1 ういず One を用いたミニトマト栽培の様子

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3~7年度
- (2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化〔新農薬等に関する試験研究事業〕

5 主な参考文献・資料

- (1) トロ箱養液栽培システム ういず One 栽培管理マニュアル, JA 全農耕種資材部